



曲げ応力下の磁気測定

実際に使用されている曲げ条件での磁性を調査いたします。

特徴

- 電磁鋼板などの軟磁性体を使用する際、曲げ応力が付与された状態で使用されることがあります。カタログデータに対して磁性劣化するため、詳細設計にあたっては劣化代を適切に見積もる必要があります。実際に使用されている曲げ条件での磁性を調査いたします。
- ・ SST(単板磁気測定)を曲げ変形下で実施します。
- ・ 板状磁性材料の磁性調査や振動解析向けの評価も行います。

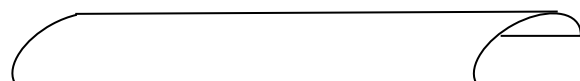
曲げ応力下の磁気測定の仕様

- ・ 試料寸法: 280mm × 100mm以下 × 0.5mm以下
- ・ 280mm長手方向、100mm幅方向、どちらも曲げ対応可能
- ・ 曲率(R=250, 500 1250 2500 5000)

評価例

以下0.5mm電磁鋼板の通常SSTと曲げSSTの比較例を示します。

試料状態



幅方向曲げ

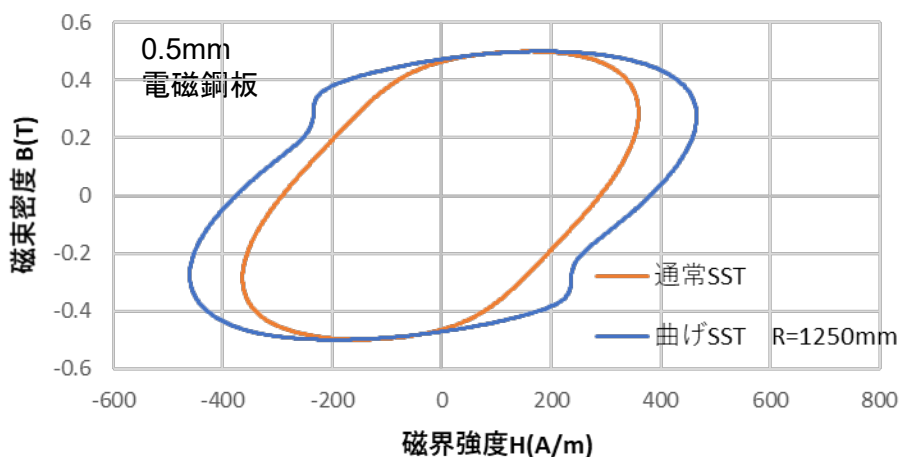


長手方向曲げ



曲げSST
R1250mm(長手方向)

W5/1000



JFE テクノリサーチ 株式会社

<https://www.jfe-tec.co.jp>

0120-643-777

Copyright ©2023 JFE Techno-Research Corporation. All Rights Reserved.
本資料の無断複製・転載・webサイトへのアップロード等はおやめ下さい。